

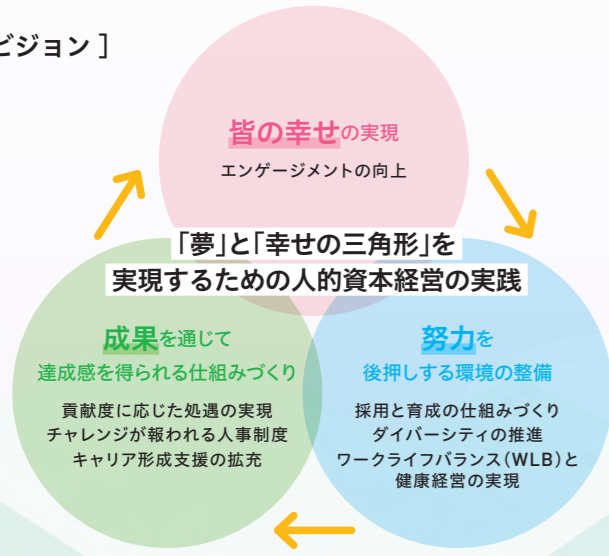


当社のFacebookを始めました。

人的資本経営への取り組み

中期経営計画では、事業戦略を支える基盤として「人財の育成/人的資本の考え方」をベースにした人財戦略を掲げています。目標の達成と持続的な成長を実現するためには、多様で意欲あふれる人財が集まり、育ち、能力を発揮し、のびのびと働くことができる組織風土づくりが不可欠です。当社グループでは、中期経営計画を推進するうえで必要となる人財像を特定しています。今後は、これに基づいた人財戦略を実行していくことで、人的資本の最大化を図ります。

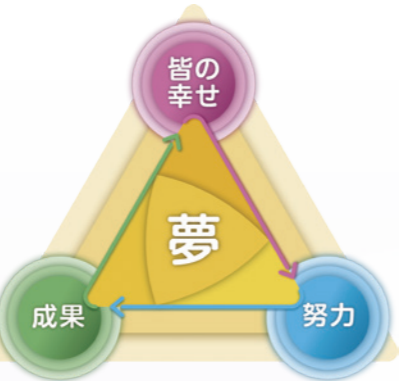
【人財戦略ビジョン】



30by30 アライアンスへの参加

30by30は生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする環境省が主導する目標です。2023年12月に当社もこの目標達成に賛同して、生物多様性の保全に貢献する「30by30アライアンス」に参加しました。氷河期に生物種が絶滅を回避できた場所であるレフュジア(待避地)をコンセプトに、当社では北海道福島町と静岡県菊川市に自然保護区域を設け、地域の生物多様性、豊かな景観を維持する活動を展開します。そのうちの一つである「クミカレフュジア菊川」では、静岡県菊川市にある生物科学研究所の隣接地に3,030m²のビオトープを創出し、市街地化する場所に里山の景観を再現します(2025年完成予定)。せせらぎ・湿地帯・池・草原・雑木林などを配置し、地域に生息する稀少な生き物(ホタル、ニホンイシガメなど)の保護活動を行い、生物多様性の維持に貢献します。また、地域の子供たちに生物多様性や環境の保全についても学習してもらおう場とする計画です。

【「夢」と「幸せの三角形」】



社員一人ひとりが夢に向かって「努力」し、「成果」を生み、その達成感・充実感によって「幸せ」になるというサイクルでさらなる拡大を目指す中期経営計画のスローガン。

詳細は下記をご覧ください

統合報告書ページ
分割ダウンロード
人財戦略

https://ir.kumiai-chem.co.jp/ja/library/csr/main/00/teaserItems1/06/linkList/03/link/ar2024_019.pdf



北海道福島町の山林

ケイアイ情報システムを統合、情報システム統括部新設

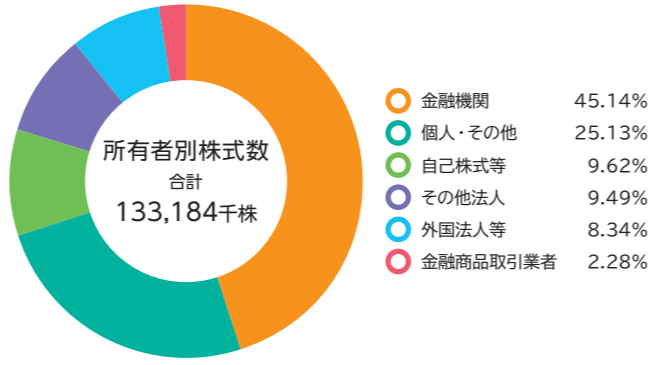
中期経営計画(KUMI STORY 2026)の重要方針の一つである「DX化の推進/デジタル化の実践」の実現に向けた取り組みを進めるべく、2024年5月1日にケイアイ情報システム株式会社を経営統合し、情報システム統括部を新設いたしました。ケイアイ情報システムが担ってきたグループ内のシステム開発・管理のノウハウを当社に取り込むことで技術レベルの向上などのシナジーを生み出し、グループのセキュリティ強化やICTを活かした業務の効率化を図るとともに、DX推進に向けた体制強化も今後進めてまいります。

株式情報/会社情報 (2024年4月30日現在)

■株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	133,184,612株 (自己株式 12,808,318株を含む)
株主数	56,313名

■株式分布状況



■会社概要

会社名：クミアイ化学工業株式会社
設立年月日：1949年6月20日
資本金：4,534百万円
事業内容：殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売
有機中間体・アミン硬化剤等の化成品の製造・販売
従業員数：2,124名(連結)(2023年10月31日)
本社所在地：〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

■大株主

株主名	当社への出資状況 持株数(千株)	持株比率(%)
全国農業協同組合連合会	26,527	22.03
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,122	7.57
農林中央金庫	5,517	4.58
共栄火災海上保険株式会社	4,480	3.72
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,867	2.38
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770	2.30
SMBC日興証券株式会社	2,099	1.74
日本曹達株式会社	1,928	1.60
第一生命保険株式会社	1,660	1.37
クミアイ化学工業従業員持株会	1,640	1.36

(注)1. 持株数、持株比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式12,808,318株を保有しておりますが上記の大株主から除いております。
3. 持株比率は、自己株式(12,808,318株)を控除して計算しております。

株式メモ

事業年度：11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会：毎年1月中
株主名簿管理人：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座管理機関：三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先(郵送先)：〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
基準日：定時株主総会については10月31日、その他必要がある時は、あらかじめ公告する一定の日
公告の方法：電子公告により行う公告掲載URL
<https://www.kumiai-chem.co.jp/>
(但し、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関するお手続き等について
当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のとおりです。

- お手続き窓口およびお問合せ先
- まだ受け取っておられない配当金の受領に関するお手続きおよびそのご照会
 - 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
 - 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会
 - 株主さま宛郵便物の発送と返戻に関するご照会
 - 特別口座に関する各お手続きおよびそのご照会

お手続き窓口 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口
お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合せ 0120-232-711
インターネットによるダウンロード <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 上記の各お手続きに関するご照会

お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続き
又は、お問合せをお願いします。

アンケートご返送のお願い
株主の皆さまの率直なご意見・ご感想をぜひお聞かせください。
お手数ではございますが、同封のアンケートはがきにご記入いただき、ご返送くださいますよう、お願い申し上げます。

アンケートはがきご返送締め切り
2024年7月31日

IR情報を当社ホームページでご覧になれます。
<https://ir.kumiai-chem.co.jp/ja/index.html>
クミアイ化学IR

Top Message
社会課題を解決し、持続的な企業価値向上を目指す

Focus On クミカ
第6回 製剤工場を知る

Business Topics
中期経営計画の進捗

株式情報/会社情報

Create the Future
~できる。をひろげる~



第76期 中間
株主通信

Top Message

トップメッセージ

社会課題を解決し、
持続的な
企業価値向上を目指す



代表取締役 社長
高木 誠

中間期の振り返りと今期の見通し

2024年10月期中間期においては、前年同期比で減収減益となりました。世界的な農業の在庫圧縮の影響による、海外農業事業の主力製品である畑作用除草剤アクシーブの出荷減に伴う売上上の減少が主な要因となります。国内農業事業は、水稲用除草剤エフィダ、水稲用殺菌剤ディザルタが販売を伸ばしましたが、一部の製品が終売となる影響もあり、前年並みとなりました。化成品事業においては、半導体需要の回復に伴い、ビスマレイミド類の出荷が大きく増加し前年同期を上回りました。以上の結果、当第2四半期は売上高881億円(前年同期比7.7%減)、営業利益88億円(前年同期比30.3%減)となりました。経常利益は、為替差益が計上されたものの持分法投資利益が減少したことで130億円(前年同期比3.8%減)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は93億円(前年同期比9.0%減)となりました。

2024年6月4日には、通期業績予想の修正を行っております。第2四半期と同様の理由により、売上高1,550億円、営業利益100億円と当初の業績予想を下回る一方、持分法投資利益や為替差益の増加などにより、経常利益は155億円、親会社株主に帰属する当期純利益は120億円と当初の業績予想と比較し増益となる予想です。また、最終利益予想が増益となることから、期末配当金についても当初の18円から2円増配の20円とする計画としております。

新中期経営計画初年度として

当社は昨年12月に、2024年10月期を初年度とする3カ年の中期経営計画(KUMI STORY 2026)を策定しました。新中計は、前中計でまいいた技術・事業の種を発芽させ、より具体的な形に育成し、今後の成長ステージに進めるための基盤強化・拡大の期間と位置づけており、設定した7つの重要方針に基づいて各施策を推進しています。初年度となる今期は、前年比で残念ながら売上高・営業利益ともに減少する見通しとなっておりますが、2025年度以降は世界的な農業の流通在庫調整が完了し、当社のアクシーブにおいても拡大余地のある地域や作物への普及、適切なジェネリク対策によってさらなる成長が期待できます。加えて、自社剤のエフィダやディザルタの拡販、化成品事業における事業領域の拡大を並行して進めていくことで、最終年度となる2026年度は過去最高となる売上高1,850億円、営業利益160億円を達成する計画です。

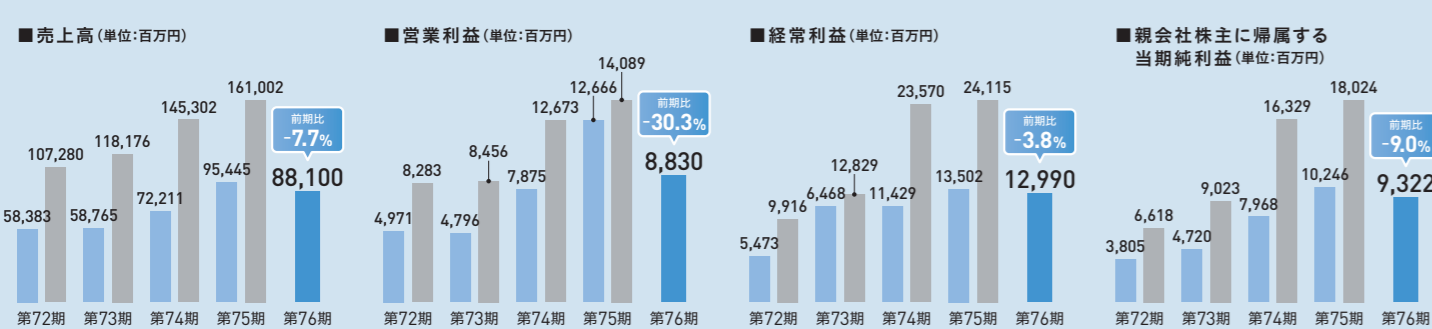
ステークホルダーへのメッセージ

農業は、農業生産性の向上や農作物の安定供給を確保するためには欠かせない資材であり、世界共通の課題である食料問題の解決に貢献しています。当社グループは、事業の継続、拡大を通じて社会課題の解決に継続して取り組み、世界の持続可能な農業を支えるメーカーとしての責務を果たしていきます。

持続的な企業価値の向上には、適切な成長投資を継続していかなければなりません。新中期経営計画では、当社グループとして初めて資金の使い方を示すキャピタル・アロケーションの考え方を開示しました。当社の根幹となる農業開発においては、新しい有効成分の発見から商品化までに一般的に10年以上の歳月と、300億円以上の多額の投資が必要と言われています。10年~20年後の当社事業を支える新剤の創製に向け、開発計画に応じた効果的で効率的な投資を積極的に進めてまいります。

また、新中計では、配当政策として「配当性向 30%以上」を目標に定めました。これまで配当性向の目標値は定めておらず、実績も20%前後であったことから、株主還元を強化した目標設定となっております。今後も事業の持続的な成長に向けた投資とのバランスを取りつつ、株主還元施策を実施してまいります。引き続きご支援をお願いいたします。

当期経営成績



Focus On クミカ

第6回
製剤工場
を知る



製剤工場

— 小牛田工場・龍野工場 —

製品としての農業は、有効成分に副資材を配合してさまざまな形状の製品に仕上げられています。使用目的に最適な形状へと加工した製品のことを「製剤」といいます。

製剤は、有効成分の性能を最大に引き出すこと、生産者が取り扱いやすく安心して使用できること、作物や環境に対して安全なこ

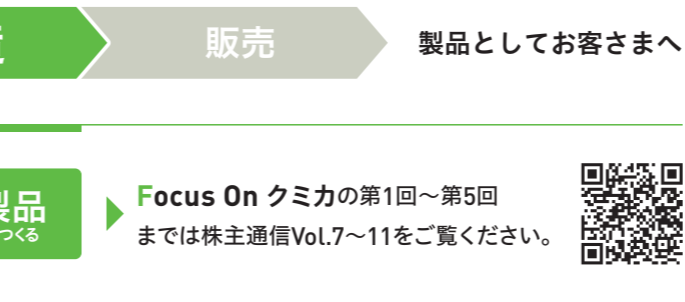
小牛田工場の特徴

小牛田工場(宮城県)は、1962年に粉剤の製剤工場としてスタートし、現在は東日本における水稲および畑作用除草剤の粒剤、豆つぶ剤、顆粒水和剤と、殺虫・殺菌剤のフロアブル剤の生産拠点として、安全第一を大前提にISO9001、ISO14001の基本方針に沿って、高品質で環境に優しい製品を生産しています。

生産体制の強化・効率化を目的に、2025年初旬からの稼働を目指して、殺虫・殺菌剤用の新ゾル乳液剤プラントの建屋建設を開始しました。最適な生産体制の構築を通じて、安定した製品の供給を実現します。



当社の活動は各事業所や従業員一人ひとりの取り組みによって支えられています。各事業所・製造拠点をご紹介するこのコーナーの第6回では、宮城県の小牛田と兵庫県の龍野にある2つの製剤工場をご紹介します。



となどさまざまな役割を果たします。当社の保有する製剤工場(小牛田工場、龍野工場)では、日本国内および世界の農業市場で使用されるさまざまな製剤に対応した製造設備、包装設備を備えています。

龍野工場の特徴

龍野工場(兵庫県)は、1962年に操業を開始して以来、西日本の生産拠点として、安全操業に努めています。フロアブル剤、粒剤、水和剤、顆粒水和剤など各種剤型に対応した生産設備を有し、多種少量生産が可能なマルチ工場です。ISO9001、ISO14001の認証を取得し、品質確保と環境保全に注力し、お客様の信頼に応える製品作りに取り組んでいます。

2022年10月には顆粒水和剤用プラントが完成いたしました。高性能で環境負荷の低い新プラントの性能をフルに発揮し、安全操業と安定供給に全力で取り組んでまいります。

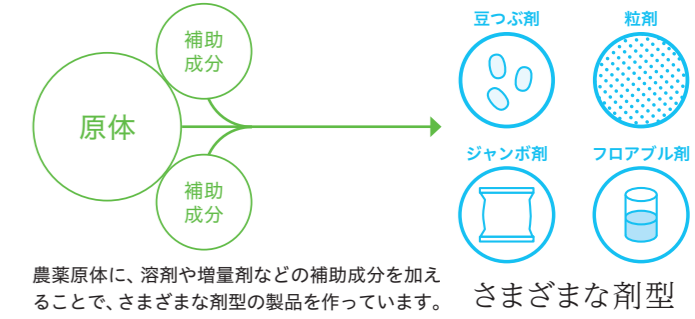


農薬はどのような形で散布されるの？

農薬の有効成分の特徴を活かすため、さまざまな製剤の形(粉剤や粒剤など)が製造されており、それを「剤型」といいます。国内で使用されている剤型は合計16種類です。今回は、その中から代表的な4種類を紹介します。



豆つぶ剤
クミカ独自の剤型で、水田に散布すると自己拡散するのが特長。均一に散布する必要がありません。



粒剤
粒の大きさが0.8~1.2mm程度。水稲用農業においては、最も一般的な剤型です。



ジャンボ剤
一般的には、粒剤や錠剤を水溶性のフィルムで包んだ剤型。器具を使用せずに散布することができます。



フロアブル剤
液状の扱いやすい剤型。そのまま散布するタイプと水に希釈して散布するタイプがあります。

農薬Q&A Q:豆つぶ剤について詳しく教えてください

A 農薬使用量、農薬散布の手間・時間を省力化する当社の独自製剤。ドローン散布にも対応した農薬の未来を担う優れた製品です。

豆つぶ剤は、軽量で自己拡散する当社の独自製剤です。農薬の中で最もメジャーな粒剤が1粒0.8~1.2mm程度なのに対し、豆つぶ剤は3~8mmと大きめです。優れた自己拡散性を有しているため、散布すると水面で拡散しながら崩壊して、水田全体に均一に有効成分がいきわたります。これにより、ぬかるんだ水田に入ることなく、水田の外からの散布が可能になりました。また、国内の水稲用除草剤において一般的な粒剤は10a当たり1kgまくように規格化されていますが、豆つぶ剤であれば同面積当たり250gと、わずか4分の1の量で十分な効果が見込めます。このように、豆つぶ剤は農薬散布の省力化に大きく貢献している画期的な製剤なのです。

さらに、豆つぶ剤は近年注目を集めている農業用ドローンでの散布にも適した剤型で、スマート農業への貢献についても期待されています。



豆つぶ剤を農業用ドローンで散布の様子